

銀賞

「じゅんかんする水」

阿比留 詩織

小郡市立三国小学校

わたしたちが、毎日使っている水は、どこから来ているのか、使った後はどこへ行ってきれいな水になるのか、また、下水道の役わりについて、調べました。

水がじよう発して、雲になって、雨がふります。森林にたくわえられた水は、川になります。その水は、ダムにためられます。

わたしたちが使う水は、山神ダムにためられ、その後山神浄水場できれいにして、わたしたちの家や学校に送られてきます。そして、じや口をひねると、きれいな水が出てきます。一日の生活の中では、水は大切な物です。わたしたちは、顔を洗ったり、洗たくをしたりします。夜には、お風呂に入ったりします。わたしたちは、使った水を流します。小郡市に住むわたしたちが使った水は、宝満川浄化センターに行きます。わたしは、使った水がどのようにになっているのかを見学に行きました。

はい水された水は、下水管を通り、ちん砂池にたどりつきます。ちん砂池では、汚水中の大きなゴミや土砂をはずめて取りのぞきます。次にちんでんちでは、汚水をゆるやかに流して、小さなゴミやどろをはずめます。浄化センターには、大きなパイプや細いパイプがたくさんあり、足元には、いくつもプールのようなものがありました。水が最終ちんでん池に行くまでに、汚水にび生物の入った活性おでいをまぜて、空気を吹きこんで、よごれをはずみやすくします。わたしは、

び生物の力で水をきれいにするとはじめて知りました。最終ちんでん池では、反のうタンクで大きなかたまりになったどろをはずめ上ずみを流します。広い浄化センターには、このようにたくさんのせつびがあり、水をきれいにしていました。このようにして処理した水は、水しつけんさをします。処理した水が川や海に流していい水かどうかをけんさします。このように、宝満川浄化センターには、いろいろな工夫がありました。

下水道についても調べました。下水道の役わりを二つ説明します。地下にうめこむ下水道がなかった時代は、道路のわきの水路などによごれた水を流していました。そこからは、いやなおいがしたり、かやハエなどの虫が発せいで、せいけつなじようたいではありませんでした。今は、下水道の整びがすみ、下水処理場でよごれた水をきれいにすることでまちは、せいけつにたもたれています。二つ目は、水辺をきれいにすることで、使ったあとのよごれた水をそのまま川に流していたころは、川や海がともよごれていました。下水処理場で水をきれいにしてから流すことで川や海のかんきようがよくなっています。

私は、水の学習をして、水は生活にとっても大切だと分かりました。水をきれいにするためにたくさんの人が関わっているのです、私はできるだけよごれた水を流さないようにしたいです。